

# 星に魅せられた音楽家

大関 学

太陽のまわりを回っている惑星の数は、数年前までは9個と数えられていましたが、2006年に国際天文学連合により8個と定められました。その際に、それまで惑星とされていた冥王星が準惑星と呼ばれるようになったのはまだ記憶に新しいところです。

ガリレオ・ガリレイが自作の望遠鏡で天体の詳細な観測をしたのは約400年前のことですが、土星のほとつ外側にある惑星、天王星は、今から200年以上前に、ある音楽家によって発見されたことをご存知ですか？

ウィリアム・ハーシェル (William Herschel) は1738年にドイツで、オーボエ奏者の息子として生まれました。ハーシェル自身もオーボエ奏者となり、軍隊での経験をもとにイギリスへ渡り、やがてオルガン奏者としても活動します。

自然科学にも強い関心を持っていたハーシェルは、音楽家としての活動のかたわら、自分で作った高倍率の望遠鏡を使って夜空の観測を行ない、1781年に、ある天体を発見

しました。

その星は、太陽の周りをまわっている惑星のひとつであり、土星のさらに外側にあることが確認されました。

太陽からも地球からも遠く遠く離れた水の惑星。その星は一部の間では「ハーシェル」と呼ばれていましたが、その後、「ウラヌス(天王星)」と名付けられました。

ハーシェルはその後も、さらに大型の望遠鏡を製作して、数々の発見を行ない、天文学の発展に大きく寄与しています。また、彼の業績は天文学上の発見だけにとどまりません(赤外線放射)を発見したのもハーシエルの功績のひとつです。

\*\*\*\*\*

1822年、ハーシェルは84歳になるすこし前にその生涯を閉じます。彼が発見した天王星が太陽のまわりを1周するのも約84年になります。偶然と言ってしまうかもしれませんが…

天文学上の業績の大きさに比べると、音楽家としてのハーシエルの活動はまだそれほど知られていないようですが、24曲の交響曲の他に、協奏曲、オルガン曲などを作曲しています。現在まで伝えられている曲はあまり多くありませんが、当館でも若干のCDや楽譜を所蔵しています。

2008年に、ヨーロッパで赤外線宇宙望遠鏡が打ち上げられる予定です。大気の影響を受けずに、宇宙空間で直接観測を行うことができるため、多くの期待が寄せられています。多くの望遠鏡には、赤外線の作用を発見した天文学者の名をとって「ハーシェル」という名前が付けられています。

\*\*\*\*\*

現在、冥王星のさらに外側にも、太陽のまわりを回る星があることが確認されているそうです。夜空の星に想いをめぐらせながら、ハーシエルの音楽を聴いてみるのも良いかも知れませんね。